

## 第7章 読書と学力・非認知能力

比嘉 康則

とよなか都市創造研究所 研究員

### <目次>

1. はじめに
2. 読書時間・意欲と学力
3. 読書時間・意欲と非認知能力
4. まとめ・考察

### 1. はじめに

昨年度のプロジェクトで行われた分析では、読書の効果を示す知見がいくつか見られた。たとえば、家庭SESが厳しい小6の学力を底支えている学校（レジリエント校）では、読書習慣がある児童が多い傾向があった。本年度は、読書と学力、そして非認知能力の関係について、より深掘りしたい。

第1に、読書時間と読書意欲について学力との関係を分析する。まず読書時間・意欲ごとの教科正答率の平均値を比較しおおまかな傾向をつかむ。次に重回帰分析を行い読書と学力の関係を検証するが、その際、読書の効果が家庭SESによって異なる可能性についても確認する。

第2に、読書時間・意欲と非認知能力の関係を分析する。読書時間・意欲と非認知能力のク

ロス集計を行った上で、ロジスティック回帰分析を実施する。こちらでも読書の非認知能力との関係を検証し、同時に読書効果の家庭SESによる差も見る。

使用するデータは、令和5年度（2023年度）の全国学力・学習状況調査データである。最新の令和6年度（2024年度）のデータを使用しないのは、児童生徒アンケートで読書に関する項目が充実しているのが令和5年度のものであり、令和6年度は読書関連の質問が含まれていないためである。

### 2. 読書時間・意欲と学力

#### 2-1. 基礎分析

まず、読書時間や読書意欲と学力の関係について分析する。読書時間<sup>1</sup>ごとの教科正答率の

<sup>1</sup> 調査票の質問文は「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑

誌は除きます)」。選択肢は「2時間以上」「1時間以上、2時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」「10分以上、30分より少ない」「10分より少ない」「全くしない」。

## 調査研究報告 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究Ⅱ

平均値を見たものが図表7-1である。読書と学力の関係は国語と算数・数学では異なることが想定されるため、ここでは教科ごとの正答率との関係を確認する。表中の「分散分析」の行では、読書時間による正答率の平均値の差に統計的に有意な差があるかどうかの検定結果を示している。すべて0.1%水準で有意のため、どの学年・教科でも読書時間による正答率の差があると言える。

小6の場合は国語・算数ともに正答率が最も高いのは読書時間が「1～2時間未満」の場合であり、それより長く・短くなると正答率が下がっている。ただ、読書時間が10分以上になると正答率の差はあまりない。表中の「多重比較」の列には、どの読書時間のカテゴリの間に正答率の差があるのかを統計的に検定した結果を示している(Bonferrioni法)。異なるアルファベットが記載されている読書時間には、正答率に差があると認められる。これをみると、小6では国語・算数ともに読書時間「10分～30分未満」から「2時間以上」の間の差は統計的に有意とは言えない。ただ、「10分未満」になると正答率が確かに下がり、「0分」ではさらに正答率が下がることがわかる。

中3についても見てみよう。中3は国語で「10～30分未満」、数学で「30分～1時間未満」

でもっとも正答率が高く、それより長時間・短時間になると正答率が低い。ただ、多重比較の結果を見ると、国語については、「0分」は正答率が有意に低いものの、それ以外は有意な差が確認できない。数学については、「0分」と「2時間以上」は正答率が低く、それ以外は有意差があるとは見なせない。

まとめると、教科正答率をもっとも高いのは読書時間が中程度(小6では「1～2時間未満」、中3では「10～30分未満」「30分～1時間未満」)の場合だが、その前後の時間との正答率の差はさほど大きいものではない。小6では10分以上の読書時間であれば、中3の場合は少しでも読書をしていれば、正答率は相対的に高い。ただし、中3の数学に関しては、読書時間が2時間以上に及ぶ場合も正答率が低い傾向が見られる。長時間の読書は学習時間や睡眠時間を圧迫している可能性があり、その影響が中3の数学で出やすいということかもしれない。

次に、読書意欲である<sup>2</sup>。読書が「好き」「やや好き」「あまり好きではない」「好きではない」の別に、国語と算数・数学の正答率を見たものが図表7-2である(多重比較はBonferrioni法)。これをみると、いずれの学年・教科でも、読書が好きほど正答率が高い傾向にあることがわかる。

図表7-1 読書時間×教科正答率

	小6						中3					
	国語			算数			国語			数学		
	N	正答率	多重比較	N	正答率	多重比較	N	正答率	多重比較	N	正答率	多重比較
2時間以上	336	71.2	a	337	69.1	a	158	73.4	a	159	55.5	b
1～2時間未満	387	73.9	a	387	70.7	a	234	74.3	a	232	57.8	a
30分～1時間未満	689	70.8	a	689	69.5	a	410	76.4	a	409	62.1	a
10分～30分未満	754	70.5	a	754	69.4	a	662	77.1	a	663	61.0	a
10分未満	555	63.7	b	555	63.1	b	493	74.5	a	493	59.0	a
0分	919	59.2	c	920	57.9	c	1,104	66.4	b	1,107	50.0	b
分散分析	$p.<.001$			$p.<.001$			$p.<.001$			$p.<.001$		

<sup>2</sup> 調査票の質問文は「読書は好きですか」。選択肢は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」だが、本章

ではわかりやすさのため、表記を「好き」「やや好き」「あまり好きではない」「好きではない」に変更している。

図表 7-2 読書意欲×教科正答率

	小6						中3					
	国語			算数			国語			数学		
	N	正答率	多重比較	N	正答率	多重比較	N	正答率	多重比較	N	正答率	多重比較
好き	1,663	72.3	a	1,664	70.4	a	1,103	78.8	a	1,102	62.4	a
やや好き	1,092	66.4	b	1,092	65.0	b	894	73.2	b	896	56.5	b
あまり好きではない	551	60.8	c	551	60.6	c	600	68.8	c	601	52.4	c
好きではない	336	54.2	d	337	52.2	d	468	59.5	d	468	46.3	d
分散分析	$p < .001$			$p < .001$			$p < .001$			$p < .001$		

2-2. 重回帰分析

続けて、読書時間・学力・家庭 SES の関係について、重回帰分析により検討する。従属変数である学力は、基礎分析によって教科による差がほぼ確認できなかったことをふまえ、国語と算数・数学を合計した正答率を用いる。独立変数である読書時間は、「0分」を基準としたダミー変数として用いる。家庭 SES は、蔵書数 25 冊以下 = 1、26 冊以上 = 0 のダミー変数として用いる。分析モデルには、家庭 SES と読書時間の交互作用項も投入する。これにより、読書時間の効果が家庭 SES によって異なる可能性を検討できる<sup>3</sup>。

また、学習意欲や学習習慣に関する変数として、「国語学習意欲」<sup>4</sup>、「算数・数学学習意欲」<sup>5</sup>、「平日勉強時間」<sup>6</sup>、「学習内容見直し」<sup>7</sup>も独立変数として投入する。学習意欲や学習習慣は教科正答率に関係していると思われるが、そのような変数を考慮した上でも読書時間と教科正答率の関連が確認できれば、その関連はより確か

なものと考えてよいだろう。

結果が図表 7-3 である。まず、蔵書数の効果について確認すると、小6・中3ともに係数が負に有意であることから、蔵書数 25 冊以下の場合には 26 冊以上の場合よりも正答率が低い傾向が確認できる。

また、読書時間については、主効果（表中の「読書 2 時間以上」から「読書 10 分未満」のカテゴリの係数。蔵書数 26 冊以上にとっての効果を意味する）は、小6についてはすべての時間で、中3については「2 時間以上」を除く時間で、いずれも係数は正に有意である。つまり、蔵書数 26 冊以上の児童生徒にとって、小6であれば読書を少しでもしていれば、中3であれば 2 時間未満までは、読書時間 0 分より正答率が高いことを示している。小6の場合は「1～2 時間未満」の係数が最も大きい。中3であれば「10～30 分未満」「30 分～1 時間未満」で係数が大きく、それより読書時間が長く・短くなった場合に係数が小さくなる傾向が見られ

<sup>3</sup> 交互作用効果については、第2章の説明も参照。

<sup>4</sup> 「国語の勉強は好きだ」という質問に対し、選択肢は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」。前2者 = 1、後2者 = 0 のダミー変数として用いる。

<sup>5</sup> 「算数の勉強は好きだ」あるいは「数学の勉強は好きだ」という質問に対し、選択肢は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」。前2者 = 1、後2者 = 0 のダミー変数として用いる。

<sup>6</sup> 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、イ

ンターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）」という質問に対し、選択肢は「3 時間以上」「2 時間以上、3 時間より少ない」「1 時間以上、2 時間より少ない」「30 分以上、1 時間より少ない」「30 分より少ない」「全くしない」。各カテゴリを分に換算したときの中央値を使用。「3 時間以上」は 210 分、「30 分より少ない」は 15 分、「全くしない」は 0 分。

<sup>7</sup> 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」という質問に対し、選択肢は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」。前2者 = 1、後2者 = 0 のダミー変数として用いる。

## 調査研究報告 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究Ⅱ

る。これは蔵書数 26 冊以上の児童生徒にとって、読書時間が長すぎても短すぎても正答率が下がる傾向があることを意味している。

次に、交互作用項（表中の「蔵書数 25 冊以下×2 時間以上」から「蔵書数 25 冊以下×10 分未満」）を確認する。小 6 では「25 冊以下×2 時間以上」の係数が負に有意となっている。これは、蔵書数 25 冊以下の小 6 児童の場合、読書時間が 2 時間以上に及ぶと蔵書数 26 冊以上の児童よりも正答率が有意に下がることを意味している。具体的に言えば、蔵書数 26 冊以上の児童の読書時間が「2 時間以上」の場合、「0 分」よりも正答率が 4.494 ポイント高いと見込まれるが、「25 冊以下×2 時間以上」の係数は -11.071 のため、蔵書数 25 冊以下の児童の読書時間が「2 時間以上」の場合は「0 分」よりも正答率は 6.577 ポイント低くなる（4.494 から

11.071 を引いた値）。読書時間が長くなることのネガティブな効果が、家庭 SES が厳しい児童で生じやすくなっていると言える。

一方、中 3 の交互作用項を確認すると、「25 冊以下×30 分～1 時間未満」で係数が負に有意となっている。読書時間「30 分～1 時間未満」の学力に対するプラスの効果が、家庭 SES が厳しい生徒で弱くなっていると言える。

以上のような読書時間と家庭 SES の交互作用について、重回帰分析から得られる正答率の推定値を図示したものが図表 7-4 である<sup>8</sup>。小 6 では、読書時間が長時間に及ぶことのネガティブな効果が家庭 SES の厳しい児童で発現しやすくなっていることがわかる。中 3 では、家庭 SES が厳しい生徒で中程度の読書時間の効果が出にくくなっていることが確認できる。

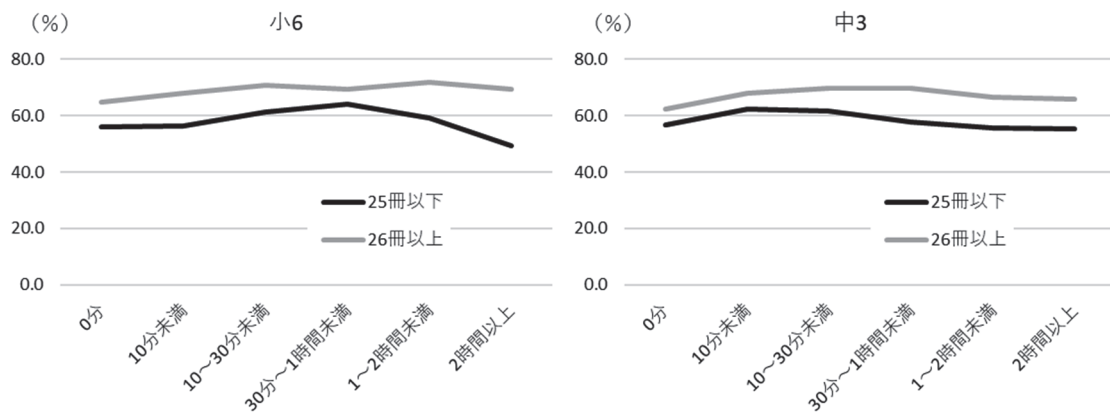
図表 7-3 教科正答率・読書時間・家庭 SES の関係（重回帰分析）

従属変数：国語 & 算数・数学正答率

切片	小6			中3		
	係数	標準誤差	標準化係数	係数	標準誤差	標準化係数
蔵書数25冊以下	-8.805 ***	1.303	-0.172	-5.910 ***	1.259	-0.118
国語好き	0.863	0.673	0.020	-1.115	0.780	-0.024
算数・数学好き	7.643 ***	0.686	0.172	5.739 ***	0.778	0.124
平日学習時間	0.076 ***	0.006	0.208	0.089 ***	0.007	0.228
学習内容見直し	4.773 ***	0.762	0.098	8.448 ***	0.853	0.172
読書2時間以上	4.494 **	1.408	0.060	3.196	1.962	0.031
読書1～2時間未満	7.087 ***	1.365	0.101	4.103 *	1.717	0.047
読書30分～1時間未満	4.618 ***	1.146	0.084	7.215 ***	1.410	0.107
読書10～30分未満	5.899 ***	1.128	0.111	7.355 ***	1.251	0.132
読書10分未満	3.170 *	1.269	0.053	5.300 ***	1.383	0.085
蔵書数25冊以下×2時間以上	-11.071 **	3.478	-0.054	-4.384	5.083	-0.015
蔵書数25冊以下×1～2時間未満	-3.846	3.025	-0.022	-5.047	3.721	-0.026
蔵書数25冊以下×30分～1時間未満	3.511	2.498	0.026	-6.151 *	2.885	-0.042
蔵書数25冊以下×10～30分未満	-0.608	2.273	-0.005	-2.278	2.254	-0.022
蔵書数25冊以下×10分未満	-2.714	2.194	-0.026	0.339	2.375	0.003
自由度調整済決定係数	0.215			0.200		
N	3631			3042		

+p<.10, \*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

<sup>8</sup> 蔵書数と読書時間以外の変数については、平均値を代入した。



図表 7-4 読書時間と家庭 SES の交互作用

次に、読書意欲・学力・家庭 SES の関係について、重回帰分析により検討する。読書意欲については、読書が「好き」「やや好き」= 1、それ以外 = 0 とするダミー変数として用いる。また、家庭 SES と読書意欲の交互作用項もモデルに投入する。それ以外の変数は、すべて読書時間に関する重回帰分析と同じである。

結果が図表 7-5 である。小 6・中 3 とともに「読書意欲」の係数は正に有意となっている。読書が好きな場合は、小 6 の場合は 7.605 ポイント、

中 3 の場合は 9.068 ポイント、正答率が高い。一方、どちらの学年も蔵書数と読書意欲の交互作用項は負に有意となっている。交互作用項の結果を図示したものが図表 7-6 だが、蔵書数 25 冊以下の場合のほうが、26 冊以上の場合よりも直線の傾きが小さいことがわかる。つまり、読書意欲があることは学力にポジティブな効果を有する可能性があるが、家庭 SES が厳しい児童生徒の場合はその効果が相対的に弱いのではないかと思われる。

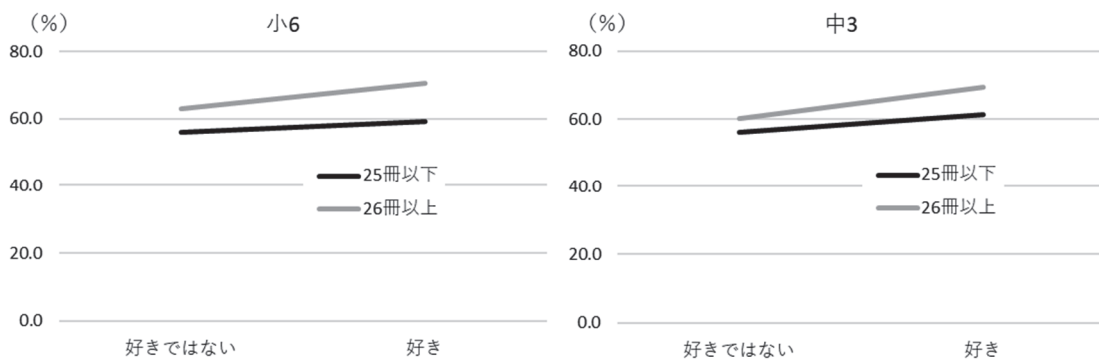
図表 7-5 教科正答率・読書意欲・家庭 SES の関係（重回帰分析）

従属変数：国語 & 算数・数学正答率

	小6			中3		
	係数	標準誤差	標準化係数	係数	標準誤差	標準化係数
切片	47.319 ***	1.057		42.534 ***	1.216	
蔵書数25冊以下	-6.973 ***	1.328	-0.136	-4.306 ***	1.268	-0.086
国語好き	0.340	0.674	0.008	-2.082 **	0.780	-0.045
算数・数学好き	7.620 ***	0.684	0.171	5.843 ***	0.772	0.126
平日学習時間	0.078 ***	0.006	0.214	0.091 ***	0.007	0.233
学習内容見直し	5.022 ***	0.755	0.103	8.737 ***	0.842	0.178
読書意欲	7.605 ***	0.929	0.151	9.068 ***	1.014	0.188
蔵書数25冊以下 × 読書意欲	-4.421 **	1.622	-0.071	-3.743 *	1.677	-0.057
自由度調整済決定係数	0.220			0.212		
N	3631			3045		

\*p<.10, \*\*p<.05, \*\*\*p<.01, \*\*\*\*p<.001





図表 7-6 読書意欲と家庭 SES の交互作用

### 3. 読書時間・意欲と非認知能力

#### 3-1. 基礎分析

第2の分析課題として、読書時間・意欲と非認知能力の関係について分析したい。令和5年度(2023年度)全国学力・学習状況調査の児童生徒アンケートでたずねられている質問のうち、今回の分析では「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人が困っているときは進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という6つの項目を非認知能力として取り上げる。

読書時間と非認知能力のクロス集計が図表7-7と7-8である。これを見ると、小6の場合は読書時間が長いほど非認知能力に関する項目

に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する割合が高い傾向がおおまかに見られる。中3の場合は、「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」を除いて、読書時間が長いほど「当てはまる」の割合が高い傾向がおおむね確認できる。ただ、いずれの学年・項目も割合の差は小さい。各表の下にある「Cramer (クラメール) のV」とは、クロス表の行の変数と列の変数の関連度を示す指標である。0から1の値をとり、値が大きいほど関連度が高いことを示す。このクラメールのVを見ると、両学年とも読書時間との関連が相対的に強いのは、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と「自分と違う意見について考えるのは楽しい」である。どちらも読書時間が長くなるほど肯定的回答が増える。

図表 7-7 読書時間×非認知能力 (小6)

自分にはよいところがあると思う					将来の夢や目標を持っている				
	どちらかと 当てはまる		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない
2時間以上 (n=337)	54.0	28.8	11.6	5.6		66.5	15.7	8.0	9.8
1~2時間未満 (n=388)	52.6	34.0	8.0	5.4		62.6	18.6	10.3	8.5
30分~1時間未満 (n=690)	45.9	38.4	10.9	4.8		66.2	17.4	8.7	7.7
10~30分未満 (n=754)	47.2	39.0	9.4	4.4		58.9	19.5	12.3	9.3
10分未満 (n=555)	45.0	37.8	10.6	6.5		55.0	21.8	11.5	11.7
0分 (n=922)	40.3	34.7	14.6	10.3		56.6	15.7	10.6	17.0
p<.001, CramerのV=.080					p<.001, CramerのV=.079				
人が困っているときは進んで助けている					人の役に立つ人間になりたいと思う				
	どちらかと 当てはまる		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない
2時間以上 (n=337)	52.5	41.2	5.3	0.9		80.7	14.5	2.7	2.1
1~2時間未満 (n=388)	44.3	47.7	6.2	1.8		79.1	18.0	2.1	0.8
30分~1時間未満 (n=690)	45.4	45.5	7.5	1.6		78.1	18.0	2.6	1.3
10~30分未満 (n=755)	41.1	49.9	7.4	1.6		78.7	17.7	2.5	1.1
10分未満 (n=554)	37.7	50.4	10.5	1.4		71.4	21.3	5.4	2.0
0分 (n=922)	37.0	46.2	13.2	3.6		66.8	24.9	4.8	3.5
p<.001, CramerのV=.081					p<.001, CramerのV=.080				
自分と違う意見について考えるのは楽しい					地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う				
	どちらかと 当てはまる		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない
2時間以上 (n=335)	44.5	35.2	13.7	6.6		39.0	36.3	16.1	8.6
1~2時間未満 (n=388)	33.8	44.6	17.3	4.4		31.2	42.0	21.1	5.7
30分~1時間未満 (n=688)	34.6	41.1	19.0	5.2		33.5	43.6	18.3	4.6
10~30分未満 (n=755)	28.5	48.3	17.5	5.7		27.7	46.9	18.4	7.0
10分未満 (n=555)	26.5	43.1	23.8	6.7		25.6	40.4	25.8	8.1
0分 (n=923)	21.6	37.8	29.1	11.5		19.0	36.9	27.9	16.3
p<.001, CramerのV=.118					p<.001, CramerのV=.126				

図表 7-8 読書時間×非認知能力 (中3)

自分にはよいところがあると思う					将来の夢や目標を持っている				
	どちらかと 当てはまる		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない
2時間以上 (n=159)	38.4	31.4	17.6	12.6		44.0	20.8	13.2	22.0
1~2時間未満 (n=234)	36.8	34.6	16.2	12.4		44.0	20.1	20.5	15.4
30分~1時間未満 (n=411)	40.1	41.6	13.9	4.4		44.0	25.1	17.8	13.1
10~30分未満 (n=664)	40.4	40.7	12.8	6.2		40.5	24.5	20.5	14.5
10分未満 (n=495)	39.0	39.4	14.9	6.7		37.4	27.5	21.3	13.8
0分 (n=1111)	35.2	41.3	15.9	7.6		36.6	23.6	19.7	20.1
p<.01, CramerのV=.061					p<.01, CramerのV=.062				
人が困っているときは進んで助けている					人の役に立つ人間になりたいと思う				
	どちらかと 当てはまる		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない
2時間以上 (n=158)	44.3	44.9	8.9	1.9		66.0	18.9	8.8	6.3
1~2時間未満 (n=234)	31.2	52.1	15.0	1.7		63.7	29.9	4.3	2.1
30分~1時間未満 (n=411)	40.4	50.1	7.8	1.7		75.9	20.7	1.7	1.7
10~30分未満 (n=664)	35.4	52.6	11.1	0.9		75.6	19.6	3.9	0.9
10分未満 (n=495)	34.5	51.9	12.7	0.8		78.0	17.8	3.4	0.8
0分 (n=1113)	35.0	47.7	14.6	2.7		69.7	24.1	4.0	2.2
p<.01, CramerのV=.063					p<.01, CramerのV=.083				
自分と違う意見について考えるのは楽しい					地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う				
	どちらかと 当てはまる		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない		どちらかと いえば当て はまらない		当てはま らない
2時間以上 (n=158)	53.8	31.6	8.2	6.3		25.8	38.4	19.5	16.4
1~2時間未満 (n=232)	38.8	39.7	15.9	5.6		17.1	39.7	27.8	15.4
30分~1時間未満 (n=410)	37.3	43.2	15.4	4.1		19.3	46.1	25.6	9.0
10~30分未満 (n=665)	29.0	48.3	18.0	4.7		16.8	44.7	27.5	11.0
10分未満 (n=495)	30.1	45.9	21.8	2.2		18.8	45.7	25.7	9.9
0分 (n=1113)	26.0	39.9	25.4	8.7		13.5	35.8	30.2	20.4
p<.001, CramerのV=.116					p<.001, CramerのV=.098				

## 調査研究報告 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究Ⅱ

次に、読書意欲と非認知能力の関係を確認する。結果は図表7-9と7-10である。小6については、読書が好きほど非認知能力の各項目に肯定的な回答の割合が増える傾向が見られる。中3については統計的な有意差は確認できるものの、読書意欲による差はわずかにとどまるものが多い。クラメールのVを確認すると、やはり両学年ともに「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と「自分と違う意見について考えるのは楽しい」で読書意欲との関連が

相対的に強い。

以上をふまえると、小6・中3ともに非認知能力と読書行動・意欲のあいだには関連が確認できるものの、強い関連が見られるものはあまりない。相対的に関連性があるのは「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という「他者受容」に関する項目、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という「地域・社会貢献志向」に関する項目である。以下の重回帰分析では、この2項目に絞って検討する。

図表7-9 読書意欲×非認知能力(小6)

	自分にはよいところがあると思う			
	どちらかと 当てはまる はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	当てはま らない
好き (n=1667)	49.0	34.7	10.3	5.9
やや好き (n=1094)	44.8	39.0	10.8	5.4
あまり好きではない (n=551)	42.8	38.8	13.1	5.3
好きではない (n=336)	41.4	29.5	14.3	14.9
p<.001, CramerのV=.075				
	人が困っているときは進んで助けている			
	どちらかと 当てはまる はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	当てはま らない
好き (n=1667)	45.0	45.3	7.9	1.8
やや好き (n=1093)	39.1	50.8	8.5	1.6
あまり好きではない (n=551)	40.7	46.6	11.3	1.5
好きではない (n=337)	35.9	46.0	12.8	5.3
p<.001, CramerのV=.064				
	自分と違う意見について考えるのは楽しい			
	どちらかと 当てはまる はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	当てはま らない
好き (n=1664)	36.6	40.4	17.2	5.8
やや好き (n=1093)	26.6	45.7	21.9	5.8
あまり好きではない (n=550)	21.6	45.1	26.7	6.5
好きではない (n=338)	17.8	31.7	31.1	19.5
p<.001, CramerのV=.131				
	将来の夢や目標を持っている			
	どちらかと 当てはまる はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	当てはま らない
好き (n=1667)	63.9	17.2	9.5	9.4
やや好き (n=1094)	56.5	20.1	11.6	11.8
あまり好きではない (n=551)	58.8	18.1	11.3	11.8
好きではない (n=336)	56.3	15.5	10.1	18.2
p<.001, CramerのV=.057				
	人の役に立つ人間になりたいと思う			
	どちらかと 当てはまる はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	当てはま らない
好き (n=1666)	79.0	17.1	2.6	1.3
やや好き (n=1094)	72.8	21.8	3.5	2.0
あまり好きではない (n=551)	71.1	23.6	3.3	2.0
好きではない (n=337)	64.7	22.0	8.6	4.7
p<.001, CramerのV=.080				
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う			
	どちらかと 当てはまる はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	どちらかと いえば当て はいば当て はまる	当てはま らない
好き (n=1665)	35.0	40.8	17.1	7.1
やや好き (n=1092)	22.7	46.4	23.7	7.1
あまり好きではない (n=551)	23.0	38.7	30.3	8.0
好きではない (n=337)	15.1	30.9	27.3	26.7
p<.001, CramerのV=.151				



図表 7-10 読書意欲×非認知能力 (中3)

自分にはよいところがあると思う	どちらかと			
	どちらかと		どちらかと	
	当てはまる	いえば当てはまる	いえば当てはまる	当てはまらない
好き (n=1104)	40.7	36.7	14.9	7.7
やや好き (n=900)	35.0	42.7	14.7	7.7
あまり好きではない (n=605)	35.5	44.6	14.4	5.5
好きではない (n=468)	39.5	36.3	16.0	8.1
p<.05, CramerのV=.046				

人が困っているときは進んで助けている	どちらかと			
	どちらかと		どちらかと	
	当てはまる	いえば当てはまる	いえば当てはまる	当てはまらない
好き (n=1103)	38.4	48.4	11.5	1.6
やや好き (n=901)	33.9	53.1	12.0	1.1
あまり好きではない (n=605)	34.4	50.4	13.4	1.8
好きではない (n=470)	35.7	46.8	14.3	3.2
p<.05, CramerのV=.043				

自分と違う意見について考えるのは楽しい	どちらかと			
	どちらかと		どちらかと	
	当てはまる	いえば当てはまる	いえば当てはまる	当てはまらない
好き (n=1101)	40.0	40.7	14.7	4.6
やや好き (n=901)	27.7	46.3	20.6	5.3
あまり好きではない (n=604)	22.8	46.5	26.0	4.6
好きではない (n=470)	27.9	35.5	25.3	11.3
p<.001, CramerのV=.113				

将来の夢や目標を持っている	どちらかと			
	どちらかと		どちらかと	
	当てはまる	いえば当てはまる	いえば当てはまる	当てはまらない
好き (n=1103)	42.5	23.8	18.0	15.7
やや好き (n=900)	37.0	27.0	20.2	15.8
あまり好きではない (n=605)	33.9	26.1	24.1	15.9
好きではない (n=469)	44.3	17.3	16.4	22.0
p<.001, CramerのV=.069				

人の役に立つ人間になりたいと思う	どちらかと			
	どちらかと		どちらかと	
	当てはまる	いえば当てはまる	いえば当てはまる	当てはまらない
好き (n=1104)	73.4	20.4	4.1	2.2
やや好き (n=901)	73.9	21.2	4.1	0.8
あまり好きではない (n=605)	71.7	23.5	3.3	1.5
好きではない (n=469)	68.2	24.3	3.4	4.1
p<.01, CramerのV=.051				

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	どちらかと			
	どちらかと		どちらかと	
	当てはまる	いえば当てはまる	いえば当てはまる	当てはまらない
好き (n=1105)	21.9	41.4	23.6	13.0
やや好き (n=900)	13.8	45.0	29.6	11.7
あまり好きではない (n=604)	13.4	42.9	31.5	12.3
好きではない (n=469)	14.7	30.5	27.7	27.1
p<.001, CramerのV=.111				

### 3-2. ロジスティック回帰分析

基礎分析の結果、非認知能力に関する項目のうち、読書行動・意欲との関連性が相対的に強いのは「他者受容」と「地域・社会貢献志向」に関するものであった。以下ではこの2つの項目についてロジスティック回帰分析を行い、読書と非認知能力、そして家庭SESの関係を検討したい。ロジスティック回帰分析とは、重回帰分析と同様に従属変数に対する独立変数の影響の程度を分析する手法だが、従属変数は「ある」「ない」のような2つの値をとる（重回帰分析の場合は連続変数。たとえば0%から100%の間をとる正答率など）。つまり今回の分析では、非認知能力の有無に読書がどのくらい関連しているかを予測する。

まず、読書時間・非認知能力・家庭SESの関係についてである。従属変数は「他者受容」と「地域・社会貢献志向」である。いずれも「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を統合した「ある」=1、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」を統合した「ない」=0とした。

独立変数のうち、読書時間は本章第2節での学力の分析と同様に、「0分」を基準においたダミー変数として用いる。家庭SESも蔵書数25冊以下=1、26冊以上=0のダミー変数である。また、非認知能力は学校・学級の雰囲気が良い場合に高い傾向があるという指摘(OECD編2022)をふまえ、教師がよいところを認めてくれているか(教師承認)、困りごと・不安を教師などに相談しやすいか(教師相談)、学校に行くのが楽しいと思うか(学校所属感)、友だち関係に満足しているか(友人関係)を独立変数としてモデルに投入することにした。いずれも「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の4件法でたずねられており、以下の分析では「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を統合した「当てはまる」=1、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」を統合した「当てはまらない」=0のダミー変数としてモデルに投入した。これらの変数を考慮した上でも読書時間と非認知能力の関連が確認できれば、その関連はより確

## 調査研究報告 豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究Ⅱ

かなものと考えてよいだろう。

小6の結果は図表7-11、中3の結果は図表7-12である。中3の「地域・社会貢献志向」の「1～2時間未満」のみ例外だが、その他の読書時間の主効果に関する係数はすべて正に有意である。読書をする時間をもつことは「他者受容」「地域・社会貢献志向」にプラスの効果

が確認できる。一方、蔵書数と読書時間の交互作用項は、中3の「地域・社会貢献志向」の「25冊以下×10～30分未満」のみ係数が負に有意な差が見られるものの、その他には有意差は確認できない。つまり、読書時間の「他者受容」「地域・社会貢献志向」への効果には、家庭SESによる違いはあまり見られないと考えられる。

図表7-11 非認知能力・読書時間・家庭SESの関係（小6・ロジスティック回帰分析）

切片	他者受容			地域・社会貢献志向		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
蔵書数25冊以下	.033	.148	1.034	-.219	.141	.804
教師承認	.526 ***	.120	1.692	.430 ***	.116	1.538
教師相談	.672 ***	.084	1.959	.556 ***	.081	1.744
学校所属感	1.231 ***	.103	3.426	.700 ***	.102	2.015
友だち満足	.442 ***	.118	1.555	.101	.116	1.106
読書2時間以上	.993 ***	.181	2.698	.781 ***	.165	2.184
読書1～2時間未満	.797 ***	.171	2.218	.617 ***	.157	1.854
読書30分～1時間未満	.696 ***	.137	2.005	.915 ***	.135	2.497
読書10～30分未満	.701 ***	.137	2.016	.731 ***	.131	2.077
読書10分未満	.406 **	.150	1.501	.269 +	.141	1.309
蔵書数25冊以下×2時間以上	-.658	.425	.518	-.172	.405	.842
蔵書数25冊以下×1～2時間未満	-.427	.370	.652	-.227	.340	.797
蔵書数25冊以下×30分～1時間未満	.053	.317	1.055	-.221	.290	.802
蔵書数25冊以下×10～30分未満	-.319	.275	.727	-.336	.255	.715
蔵書数25冊以下×10分未満	-.163	.259	.850	.242	.245	1.273
疑似決定係数 (Nagelkerke)	.180			.112		
N	3630			3630		

\*p<.10, \*\*p<.05, \*\*\*p<.01, \*\*\*\*p<.001

図表7-12 非認知能力・読書時間・家庭SESの関係（中3・ロジスティック回帰分析）

切片	他者受容			地域・社会貢献志向		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
蔵書数25冊以下	-.053	.137	.949	-.255 *	.125	.775
教師承認	.497 ***	.116	1.644	.419 ***	.111	1.520
教師相談	.721 ***	.095	2.056	.527 ***	.085	1.694
学校所属感	.955 ***	.107	2.600	.722 ***	.103	2.059
友だち満足	.314 *	.128	1.369	-.121	.124	.886
読書2時間以上	1.371 ***	.267	3.938	.775 ***	.206	2.170
読書1～2時間未満	.669 **	.209	1.952	.283	.173	1.326
読書30分～1時間未満	.751 ***	.172	2.119	.667 ***	.147	1.947
読書10～30分未満	.628 ***	.147	1.874	.577 ***	.127	1.781
読書10分未満	.286 **	.158	1.331	.550 ***	.143	1.733
蔵書数25冊以下×2時間以上	.400	.827	1.493	-.818	.517	.442
蔵書数25冊以下×1～2時間未満	-.004	.456	.996	.021	.377	1.021
蔵書数25冊以下×30分～1時間未満	-.062	.355	.940	-.369	.290	.691
蔵書数25冊以下×10～30分未満	-.284	.259	.753	-.494 *	.228	.610
蔵書数25冊以下×10分未満	.527	.291	1.694	-.004	.243	.996
疑似決定係数 (Nagelkerke)	.168			.109		
N	3057			3057		

\*p<.10, \*\*p<.05, \*\*\*p<.01, \*\*\*\*p<.001

続いて、読書意欲と非認知能力・家庭SESの関係についてロジスティック回帰分析によって検討する。読書意欲以外の変数は、上述の読書時間についての分析と同様である。読書意欲は、「読書が好きですか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した「当てはまる」= 1、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した「当てはまらない」= 0に変換したダ

ミー変数としてモデルに投入する。

結果は図表7-13と7-14である。いずれの学年でも、「読書好き」の係数は正に有意である。また、交互作用項は有意になっていない。よって、読書意欲があることは「他者受容」「地域・社会貢献志向」といった非認知能力にプラスの効果を有し、その効果には家庭SESによる差は認められないと言える。

図表 7-13 非認知能力・読書意欲・家庭SESの関係 (小6・ロジスティック回帰分析)

	他者受容			地域・社会貢献志向		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
切片	-1.702 ***	.170		-1.018 ***	.161	
蔵書数25冊以下	-.218	.151	.804	-.308 *	.144	.735
教師承認	.524 ***	.119	1.688	.432 ***	.116	1.540
教師相談	.690 ***	.083	1.994	.575 ***	.080	1.778
学校所属感	1.231 ***	.103	3.424	.697 ***	.101	2.007
友人関係	.443 ***	.117	1.557	.107	.116	1.112
読書意欲	.532 ***	.108	1.703	.654 ***	.103	1.924
蔵書数25冊以下×読書意欲	.084	.192	1.087	-.034	.181	.967
疑似決定係数 (Nagelkerke)	.172			.106		
N	3630			3630		

+p<.10, \*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

図表 7-14 非認知能力・読書意欲・家庭SESの関係 (中3・ロジスティック回帰分析)

	他者受容			地域・社会貢献志向		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
切片	-1.186 ***	.165		-.951 ***	.156	
蔵書数25冊以下	-.008	.138	.992	-.406 **	.127	.666
教師承認	.516 ***	.115	1.675	.439 ***	.111	1.552
教師相談	.721 ***	.094	2.056	.537 ***	.084	1.711
学校所属感	.932 ***	.106	2.540	.720 ***	.102	2.055
友人関係	.335 **	.127	1.397	-.119	.123	.888
読書意欲	.665 ***	.115	1.945	.365 ***	.102	1.440
蔵書数25冊以下×読書意欲	-.021	.195	.979	-.030	.170	.971
疑似決定係数 (Nagelkerke)	.159			.098		
N	3060			3060		

+p<.10, \*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

### 4. まとめ・考察

本章では、読書と学力・非認知能力の関係について、家庭SESもふまえた分析を行った。主な結果は以下のとおりである。

- 読書時間が少しでもある場合は、まったく読書をしない場合に比べて学力が高い傾向がある。ただ、小6の家庭SESが厳しい児童は、長時間読書の学力に対するネガティブな影響が出やすい。中3の家庭SESが厳しい生徒は、中程度の読書時間の学力に対するポジティブな効果が弱い。
- 読書意欲がある場合は、ない場合に比べて学力が高い傾向がある。小6・中3ともに家庭SESが厳しい児童生徒は、読書意欲の学力に対するポジティブな効果が弱い傾向にある。
- 読書と特に関連が見られる非認知能力は「他者受容」「地域・社会貢献志向」である。読書時間が少しでもある場合や、読書意欲がある場合に「他者受容」「地域・社会貢献志向」を有する傾向にある。読書時間・意欲と「他者受容」「地域・社会貢献志向」の関係には、家庭SESによる違いはほとんど確認できない。

以上のように、読書をしていたり読書が好きだったりする場合に、学力が高く、非認知能力も高い傾向がおおむね見られた。家庭SESや学習習慣、学校や学級の雰囲気などを統制した上で確認された関連であることから、読書と学力・非認知能力のあいだの関連はより確からしいと考えてよいだろう。

ただ、読書時間については、長くなればなるほど学力が高くなる、というわけではないようだ。小6では「1～2時間未満」、中3では「30分～1時間未満」で教科正答率がもっとも高く、それより長くなると正答率が低下する傾向が見られた。低下幅はさほど大きなものではなく、

統計的に有意な差もあまり見られないとはいえ、中3では2時間以上読書をしている生徒で数学の正答率が下がる傾向が認められた。長時間の読書は、学習時間や睡眠時間を削ることにつながっているのかもしれない。一方、まったく読書をしない場合や、小6では読書時間が「10分未満」と少なかったりする場合は、読書時間が中程度のケースに比べて確かに学力が低くなりがちなようだ。個人差もあると思われるが、全体的には、学習時間や睡眠時間、さらには遊ぶ時間などともバランスがとれたほどほどの読書量が適切と言えるかもしれない。

一方、読書の学力に対する効果は家庭SESによって異なっている様子もうかがえた。読書が学力を伸ばす効果をもっているとしても、家庭SESが厳しい児童生徒はそれ以外の児童生徒に比べて読書から得られる学力向上の効果が相対的に小さかったり、読みすぎによるネガティブな影響が強く出ていたりしていた。猪原(2024)は先行研究をふまえて読みすぎの弊害を説いているが、小6児童の読書時間と学力の関係の分析からは、長時間読書のネガティブな影響は特に家庭SESが厳しい児童で生じやすいと言えるだろう。中3でも、中程度の読書時間の効果で家庭SESによる差が生じており、家庭SESが厳しい生徒で読書時間の効果が抑制される傾向が見られた。

読書効果が家庭SESによって異なる理由については、今回の分析からは明確なことはわからない。考えられる可能性としては、たとえば、家庭SESによる幼少期からの読書経験の差が積み重なることで、読書から受け取れる情報に差が生じているのかもしれない。読む本の種類の違いが、読書の学力への効果の差を生んでいるのかもしれない。いずれにせよ、読書教育では読書の“量”を増やすというよりも読書の“質”を意識することが、特に家庭SESが厳しい児童生徒に対しては重要だと考えられる。読書量

のみを評価した場合、それはむしろ学力格差を広げる結果にもなりかねない。

もちろん、読書の効果は教科テストで測られる学力だけではない。今回の分析では、非認知能力のうち「他者受容」や「地域・社会貢献志向」が相対的に読書と関連が強いことがわかった。読書をしていたり読書が好きだったりすることは、これらの能力にプラスに働いている可能性があり、その効果は家庭 SES にあまり左右されないと思われる。

「他者受容」や「地域・社会貢献志向」は、他者に対する想像力や開放性を含んでいると考えられる。桜井（2024）によれば、高校受験のための勉強・部活をがんばっていた高校生ほど、「貧しくなるのはその人が努力しないからだ」といった能力主義的な価値観を抱きがちであり、読書習慣がある生徒ほどそのような価値観を持たない傾向にある。自分とは異なる立場を受け止める態度、地域や社会に働きかけていく態度を読書が育むとしたら、それは今後の共生社会を創造する主体の育成という意味で重要だ

ろう。教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力のひとつとして現行の学習指導要領が掲げている、「学びに向かう力・人間性等」の涵養にもつながると考えられる（文部科学省 2017）。

ただし、読書と学力・非認知能力の関係については、因果関係の向きに注意する必要がある。読書が学力や非認知能力を高めているのか、学力や非認知能力が高いことが児童生徒を読書に向かわせているのかは、今回の分析からはわからない。今後、パネルデータを用いた分析を行う必要がある。

### 【参考文献】

- 猪原敬介, 2024, 『読書効果の科学——読書の“穏やかな”力を活かす3原則』京都大学学術出版会.
- 文部科学省, 2017, 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』.
- OECD 編, 2022, 矢倉美登里・松尾恵子訳『社会情動的スキルの国際比較——教科の学びを超える力』明石書店.
- 桜井政成, 2024, 「デューイ理論における体験型福祉教育へ示唆する命題の特定と検証——『経験』・『反省』概念への着目から」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』42: 32-45.